

# I 研修の構想

## 1 研修主題

### 「自ら学び、確かな学力を身に付けた児童の育成」

～広げ、深める交流活動に視点を当てて～

## 2 主題設定の理由

### (1) 本校の教育目標から

本校の学校教育目標の一つに、「よく考え、すすんでやりぬく子ども」の育成があり、具体目標の一つとして、「自分からすすんで学習に取り組む子ども」の育成を目指している。目標を達成するための方策として、一昨年度より学力オリンピックの実施や算数アイテムの活用、家庭学習の推進を通して、児童の学力向上を図ってきた。また、課題解決的な学習の授業実践を取り入れることで、児童の学習意欲を喚起し、児童自らが確かな学力を身につけられるような学び方の指導に努力してきた。今年度も、学校経営方針を受けて「基礎・基本の確実な定着と『活用・探究』を図る指導の充実」を実現させるために、本校の全教育活動を通して、児童が学習意欲や姿勢・態度、および学び方を継続して育てていくべきであると考えている。

以上のことから、本校の研修課題は、学校教育目標の具現化を達成するために、昨年度に引き続き、全教科の学習を通して「自ら学ぶ」意欲を大切にしていこうとする。そして、課題解決的な学習の過程の中で探究的活動を充実・深化させるための方策として、交流活動に着目して児童の思考力や表現力を高めることを目標としていきたいと考える。

### (2) 教育の今日的課題から

平成28年度、群馬県教委員会より提示された「学校教育の指針」でも、「たくましく生きる力をはぐくむ」を基本目標とし、「自ら学び、自ら考える力」を身に付けさせることを掲げている。具体的には、「知識・技能を活用した力を伸ばすための取組の充実」を取り組みの柱の一つとし、「考え、表現させる授業」の充実を推進している。また、桐生市教育委員会の示した平成28年度「教育行政方針」の中では、昨年度に引き続き「『確かな学力』の確実な習得」が挙げられている。更に重点とする学力として、「基礎・基本的な知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学習意欲」の3つを掲げ、それらを身に付けるための授業改善に向けて、内容が具体的に示されている。

また、平成27年度、文部科学省は「21世紀を生き抜くための力を育成するため、基礎的・基本的な知識・技能の習得に加え、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成や学習意欲の向上、多様な人間関係を結んでいく力や習慣の育成等を重視する必要がある。」としている。並びに、「様々な言語活動や協働的な学習活動を通じて効果的に育まれることに留意する必要がある。」としている。更に、「地域社会と一体となった子どもの育成を重視する必要がある。」と、子どもたちを取り巻く社会にも目を向けた教育活動を推奨している。

以上のような教育の課題を鑑み、本校では、全教科の学習活動において「自ら学び、確かな学力を身に付けた児童の育成」を、昨年度に引き続き目指すことにする。そして、今年度は、交流活動に視点を当て、児童が自ら進んで課題解決を図れるような授業を実践し、「確かな学力」を習得し、「生きる力」をはぐくむことにつなげていきたいと考える。そして、交流活動を通して、子どもたち同士が意見交換や発表など、互いに教え合い、学び合う、協働的な学びを通して、思考力・判断力・表現力を育成していきたいと考える。また、本校を取り巻く地域社会が、教育に関する意識が高いという利点を生かし、地域との連携を軸に、家庭教育力の向上も推進していきたい。

### (3) 今までの研修と児童の実態から

本校は昨年度、全教科において「自ら学び、確かな学力を身に付けた児童」を目指し、「はばたく群馬の指導プラン」を基に、課題解決的な学習に着目した授業改善に努めて研修を進めてきた。課題解決的な学習

の流れを3つのステップ（①学習課題を把握する。→②目的をもって課題を追究する。→③課題をまとめる。）を基盤に、様々な学習活動を展開した授業実践を行ってきた。その結果、児童がめあてに向かい、見通しをもって課題解決に意欲的に取り組めるようになり、効果的な授業実践を推進することができた。また、目指す児童像と身に付けさせたい力を発達段階を意識して設定したことで、全学年を見通したスパイラル的な課題解決学習の仕方の研究を、教職員同士が共通理解を図りながら深めることができた。その中で、児童が課題に対して意欲的に自力解決させるためには、児童の疑問の中から課題を見い出せるような授業展開を工夫することが必要だという課題も出てきた。更に、児童に確かな学力を身に付けさせるためには、課題解決の過程で、児童自身の考えを深めることも重要な課題であることがわかった。

そこで、今年度は児童自らが自分の考えを広げたり、深めたりできるように、課題解決的な学習における交流活動に着目して研修を進める。課題解決的な学習のどの段階で、どのような交流活動を取り入れると効果的かを探り、授業実践を充実・改善させていくことで、「自ら学び、確かな学力を身に付けた児童の育成」を目指していくこととする。更に、本校では、昨年度から高学年で教科担当制を取り入れており、学年研修を充実させ、全教科で取り組みを推進していくこととした。

### 3 研修のねらい

課題解決的な学習過程の各場面において、交流活動を通してどのような手立てを行えば、自ら学び、確かな学力を身につけた児童が育成できるのかを明らかにする。

### 4 研修の見通し

課題解決的な学習過程の各場面における交流活動を通して、児童の実態に応じ、自分の考えを広げ、深める工夫をすれば、自ら学び、確かな学力を身につけた児童が育成できるであろう。

### 5 研修の内容

「自ら学び、確かな学力」を身に付けさせるための授業に向けた手立てを探る。

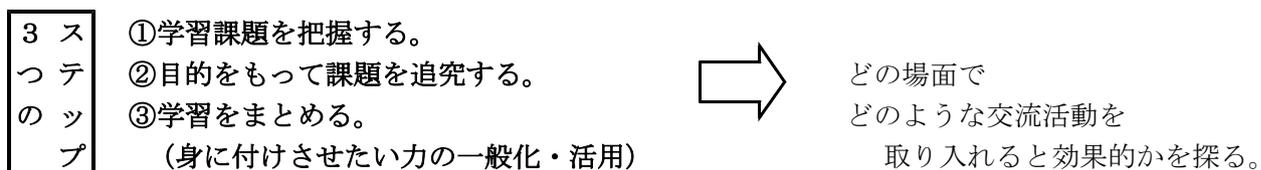
～広げ、深める交流活動に視点を当てて～

- (1) 研修主題について検討して達成するための有効な手立てを探り、全職員で共通理解をはかる。
- ・「自ら学び、確かな学力」について分析、検討し、身に付けさせたい力を設定する。
  - ・学習指導要領における4観点「関心・意欲・態度」「技能」「思考・判断・表現」「知識・理解」をもとに、有効な手立てを探り、課題解決的な各段階の評価につなげる。

- (2) 課題解決学習における交流活動の指導法を工夫する。

#### 交流活動を取り入れた学習過程の工夫

- ◎教科の特性や児童の実態をもとに、課題解決的な学習を3つのステップで構築し、各段階で、どのように交流活動を取り入れると効果的か、学校全体の共通理解のもと検討し、実践する。



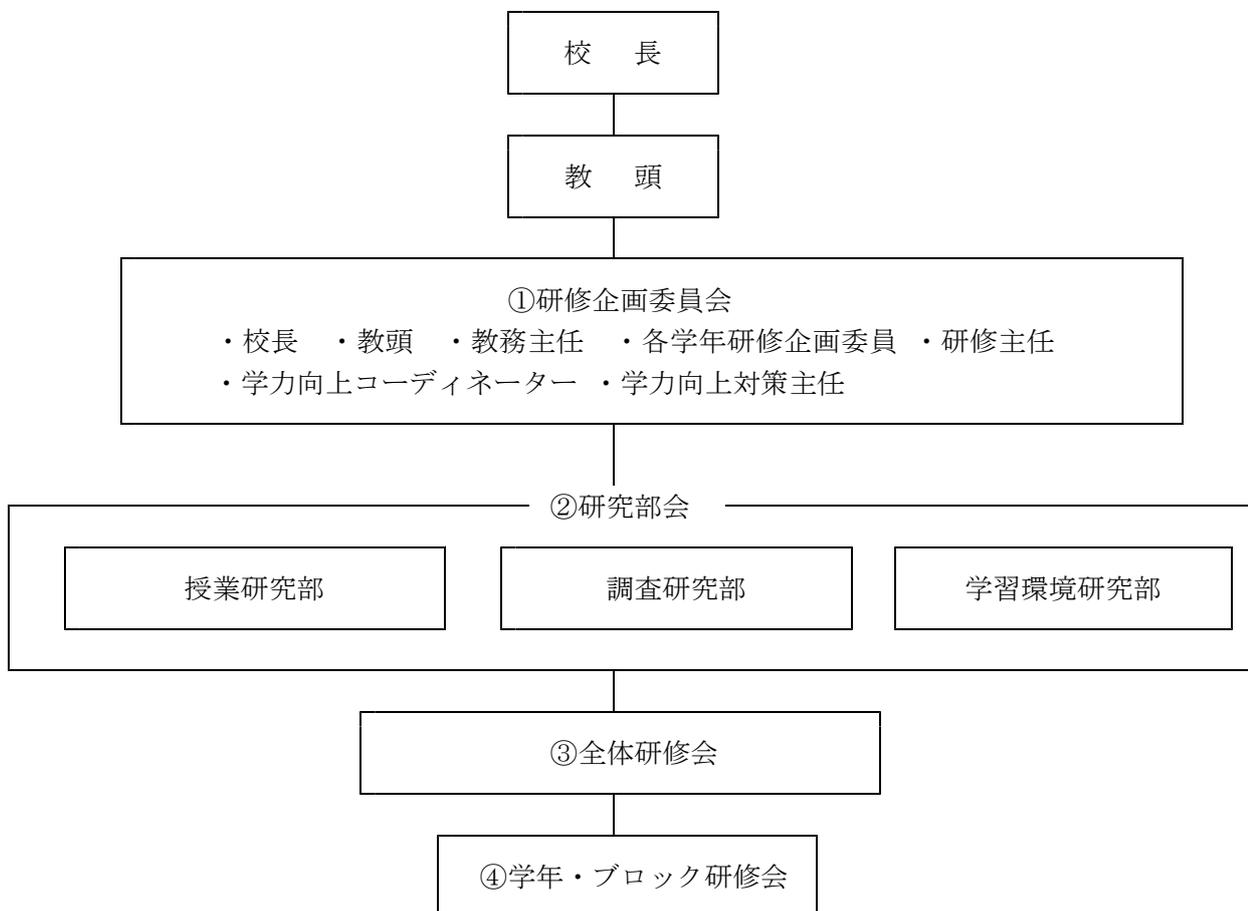
- ・「単元の目標」「指導事項」「身に付けさせたい力」をはっきり把握して学習活動を計画する。
- ・児童自らが「めあて」を見つけ、見通しを持って課題を追究し、自分の考えを「まとめ」られるような授業を実践する。
- ・課題解決的な学習過程の追究する場面で、交流活動を通して、児童の実態に応じて自分の考えを広げ、深める工夫をする。（場の設定、学習形態の工夫、学習方法の工夫など）

- (3) 児童の実態を調査する。
  - ・意識調査及びQU・C&Sテストを行い、課題解決的な学習における交流活動に有効な手立てを探る。
- (4) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るために、より効果的な繰り返し学習を取れ入れる。
- (5) 学校全体で、学習意欲の向上と読み書き・計算等が身に付く学習活動を展開する。
  - 活動例：計算コンテスト、漢字コンテスト、算数アイテムの活用
- (6) 「家庭学習の仕方」の十分な活用と家庭への啓蒙活動
- (7) 一人1公開授業をすることで、指導力の向上を図る。

## 6 研修の方法

### (1) 研修の組織

学年・ブロック研修を母体とする。



#### ① 研修企画委員会

〔目的〕 研修を正しく位置づけ、能率的に行われるように研修企画委員会を設ける。  
研修企画委員会は、校内研修の立案、推進、評価を行う。

〔内容〕 研修の方針、重点の立案、推進をする。

研修の方向性、ねらい、見通し、内容、計画を検討する。

主題の設定や研修計画の立案、推進、反省・評価、まとめをする。

家庭学習習慣のルール「家庭学習の仕方」の活用及び工夫・改善

研究授業への協力

(「研修のまとめ」の作成)

〔構成〕 校長、教頭、教務主任、研修主任、学力向上対策主任、各学年研修企画委員  
(必要に応じて拡大する。)

〔運営〕 司会、記録は各学年研修企画委員の輪番とする。

なお、企画委員会の司会、記録は、次回の全体研修会の司会、記録をする。

〔司会〕 6年→5年→4年→3年→2年→1年

〔記録〕 5年→4年→3年→2年→1年→6年

② 研究部会

【授業研究部 調査研究部 学習環境研究部】

- 「自ら学び、確かな学力」を育てる有効な手立てのあり方を明らかにするために、課題解決的な学習における交流活動の授業研究を行う。
- 教材を効果的に活用する授業の開発をする。
- 意識調査及びC&Sテストを実施し、検証する。
- 学習環境を整えるための支援。
- 外国語活動の推進。
- 「家庭学習の仕方」の活用と家庭への啓蒙
- 学力向上のための学習活動の推進
- 研修に関する先進校や公開授業等の情報を提供する。
- 研修に関連した図書の実施。

- ・各教科部会に部長・副部長を置く。
- ・研修企画委員会の中から各教科部会の部長、副部長を決める。

◇各部会のメンバー                      ◎・・・部長                      ○・・・副部長                      ☆・・・研修企画委員

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
授業研究部	○☆新海	重野	井上	☆小林 北向	大河内	◎☆関
調査研究部	牧田 金澤	◎☆佐藤	関口 森	服部	磯田	○☆大沼
学習環境研究部	小山	今泉	◎☆林	荻野	○☆須藤	松井 澁谷

③ 全体研修会

- ・全教職員で構成し、運営する。
- ・研修企画委員会や部会及び学年から提案された研修全体に関わる内容について討議し、共通理解する。

④ 学年・ブロック研修会

- ・日常の実践に努め、学年の研修、実践、評価を行い、その問題点の解決を図る。
- ・研修企画委員会、全体研修会、研究部会から出された課題について検討する。
- ・検討が必要な意見等を研修企画委員会、全体研修会、研究部会に反映させる。

## 7 研修計画

学期	期 日	研 修 内 容
1 学期	4 月 1 2 日 (火)	企画委員会① 経過報告、組織、計画等の立案 指導主事訪問日のあり方について
	4 月 2 2 日 (金)	全体研修会① 経過報告、組織、計画等の立案 指導主事訪問日のあり方について 指導案形式、指導主事訪問日の研究会のもち方、 進め方について
	5 月 1 7 日 (火)	企画委員会② 児童の実態把握について 研究授業者・一般授業者の割り振り原案、 指導訪問日の進め方、日程等の確認
	5 月 2 4 日 (火)	全体研修会② 研究授業者・一般授業者の割り振り原案、 指導訪問日の進め方、日程等の確認 ＜研究部会＞ メンバーの確認、今年度の活動内容について
	6 月 3 日 (金)	全体研修会③ 代表授業 指導案説明会および模擬授業
	6 月 7 日 (火)	企画委員会③ 訪問日の各学年の発表内容の確認 各学年の目指す児童像・身に付けさせたい力 検討
	6 月 1 7 日 (金)	第 1 回 指導訪問日
	6 月 2 3 日 (火)	企画委員会④ 指導主事訪問を受けての今後の確認
	7 月 1 9 日 (火)	全体研修会④ 特別支援教育講習会（スクールカウンセラー）
	8 月 2 日 (火)	全体研修会⑤ 現職教育 PC 研修
2 学期	9 月 1 日 (月)	企画委員会⑤ 研修全体構想図について 2 学期指導訪問日授業研究会の持ち方について
	9 月 1 4 日 (水)	全体研修会⑥ 研修全体構想図の検討
	9 月 2 6 日 (月)	全体研修会⑦ 英語研修「すぐに使えるアクティビティ講座」 (講師：ECC ジュニア)
	1 0 月 2 4 日 (月)	全体研修会⑧ 代表授業指導案説明会および模擬授業
	1 1 月 1 日 (火)	企画委員会⑥ 学習の約束作成について 指導訪問日の日程確認等
	1 1 月 2 1 日 (月)	第 2 回 指導訪問日
	1 2 月 2 日 (金)	企画委員会⑦ 指導主事訪問を受けての今後の確認 研修のまとめについて（内容確認）
3 学期	1 月 1 2 日 (木)	全体研修会⑨ 学年研修のまとめについての確認 〈学年研修〉 各学年の研修のまとめ
	2 月 1 日 (水)	企画委員会⑧ 研修全体のまとめ（成果と課題について）
	2 月 7 日 (火)	第 3 回 指導訪問日①（3 年目）
	8 日 (水)	第 3 回 指導訪問日②（初任者）
	2 月 7 日 (火)	全体研修会⑩ 学年研修のまとめ（成果と課題について） 来年度の校内研修のためのアンケート調査について 〈学年研修〉 各学年の研修のまとめ
	2 月 2 3 日 (木)	企画委員会⑨ 研修全体のまとめ（成果と課題について） 来年度の研修について
3 月 2 日 (木)	全体研修会⑪ 今年度の研修のまとめ 来年度の研修について（決定）	